

2004年1月23日

沖縄島東海岸地域・辺野古におけるサンゴの状況について（要望）

沖縄素潜りダイビング協会
会長・広田 聖

防衛施設庁による辺野古東海域におけるボーリング調査箇所についての事前環境調査（「潜水調査（事前踏査）」）が2003年に行われました。私たちは、この機会に、沖縄のサンゴ礁海域についての現状の把握と将来展望について、これまでの沖縄の海を見てきた者として見解を述べたいと思います。

沖縄のサンゴは赤土流出による影響、埋め立てや人口構造物による潮流変化等による環境悪化で全体的に死滅に追いやられています。

環境悪化に加えて1998年夏の海水異常高温による「白化現象」と2002年7月、9月の台風による攪乱、ここ数年の海水高水温により壊滅的打撃を受けています。

サンゴに関する現状は、人間にたとえるならば、自力呼吸がやっとで生きている現状です。

この時期のサンゴの状況で沖縄の海を論じれば、健全なサンゴは皆無に近い状況となり、「埋め立て計画によるサンゴ礁への影響は無い」「サンゴの生育は皆無」との結論に至ります。

自然環境は、一朝一夕で解決できるもので無いことは明らかな中で、沖縄県・国は地球的規模の年月を無視し、目の前の状況のみで自然環境を語ろうとしています。

沖縄県や事業主体となる国が現状のみで沖縄を語ることなく、過去と現状、そして、未来を見据えた目で、沖縄の海を語ることをせつに希望します。